

台湾ヤミの住まいの建築論

——中心・通路・境界の場所——

足立 崇（大阪産業大学准教授）著

A5判上製函入 本文 272 頁 カラー口絵 8 頁 定価 13,650 円（本体価 13,000 円＋税）

ISBN978-4-8055-0634-9 C3052

本書は台湾の蘭嶼という小島に暮らすヤミと呼ばれる人々の「住まい」をとおして、建築において重視される「住まう」ことをその場所の現象にそくして究明する試みである。

本書は8章よりなる。第1章ではヤミの人々の歴史と生活環境を概説し、ヤミの住まいに関する既往研究と本書の視座を明らかにする。第2章では神話・伝説の解釈をとおして方位観や世界観と密接にかかわる海と山の場所秩序を明らかにする。ここではとくに洪水神話に着目する。第3章では主屋バアイ（vahay）の4つの形式に着目し、その空間構成の共通点と差異から主屋バアイの建て替えの意味を明らかにする。第4章では主屋バアイの建造過程に着目し、バアイが「住まい」としてどのように形成され、秩序づけられていくかを明らかにする。第5章では主屋落成礼ミヴァライ（mivazay）に着目し、それがバアイを「住まい」にすることとどのようにかかわっているかを明らかにする。第6章では就寝や食事の仕方といった生活行為に着目し、それぞれの通常のとときと飛魚漁期のとときとの差異をとおして「住まい」の場所秩序の変化とその意味を明らかにする。第7章では葬送儀礼に着目し、家人や他者の死に際して「住まい」の場所秩序がどのように変化するか、またその意味について明らかにする。第8章では第二次大戦後、台湾政府のもとヤミの住環境にどのような変化が現れてきたのか、またその問題点について論じる。ここではとくに新しく建てられるようになった鉄筋コンクリート住宅に着目する。（本書序章より）



蘭嶼の位置



ヤミの住まいの家屋宅地

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは

序 文

第1章 フィールドと本書の視座

序／1. 台湾と蘭嶼の歴史／2. ヤミの生活と環境／3. 既往研究と本書の視座

第2章 神話・伝説にみる海と山の場所秩序

序／1. ヤミの神話・伝説／2. 海と山の場所秩序／結

第3章 主屋バアイの形式と空間構成

序／1. 空間秩序／2. 主屋バアイの形式／3. 各形式バアイの空間構成にみる共通点と差異／4. 3門バアイと4門バアイの差異にみる空間構成の意味／結

第4章 主屋バアイの建造にみる中心の場所秩序

序／1. 4門バアイ建造の概要／2. 中心と通路としてのマバック／結

第5章 主屋落成礼ミヴァライにみる内・外の場所秩序

序／1. 主屋落成礼ミヴァライ／2. 内・外の場所秩序形成／結

第6章 生活行為にみる中心と内・外の場所秩序

序／1. 飛魚漁期の概要／2. 就寝の仕方／3. 食事の仕方／4. 内・外の二重構造と中心の場所／結

第7章 葬送儀礼にみる場所秩序の否定と再構成

序／1. 葬送儀礼の概要／2. 葬送儀礼の場所秩序／結

第8章 変貌するヤミの住まい

序／1. 外部との結びつきによる原住民族意識の高まり／2. 住居形式の変容／3. 鉄筋コンクリート住宅落成礼／4. 中心の喪失／結

結 語

付属図面資料

図版／引用・参考文献／初出二覧／後 記／索引



主屋バアイと背後の山



「バアイの靈魂」とされる棟持柱トモック



イヴァリヌ村の伝統的集落を見下ろす



主屋落成礼の歌会ミアノオド



主屋落成礼の歌会マニムヌカト

【著者略歴】

足立 崇（あだち・たかし）

1972年 松江市生まれ

1995年 九州大学工学部建築学科卒業

1997年 九州大学大学院工学研究科博士前期課程建築学専攻修了
日本学術振興会特別研究員

1998年 大阪産業大学工学部環境デザイン学科助手

2004年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・環境学専攻修了
博士(人間・環境学)

現在 大阪産業大学工学部建築・環境デザイン学科准教授

2002年 日本建築学会奨励賞受賞

受賞論文「台湾ヤミ族における親柱tomokと『住まう』こと」



主屋落成礼で列をなし来訪する他集落の客人



涼台タガカルからの眺め



イヴァリヌ村の伝統的集落を見上げる